

「大回復への道・ Great Recovery」

歴史的危機の「半歩先」 NHK・Ch2TV番組(1月3日・ズームバックXオチアイ) からの要約



落合陽一
(メディア・クリエイター)
2025年大阪
日本国際博覧会
テーマ事業
プロデューサー



オードリー・タン
(IT閣僚・台湾)
台湾のコロナ禍
対応をITで推進



マルクス・ガブリエル
(哲学者・ドイツ)
ボン大学教授

詳細は下記のURLを検索してください。

[落合陽一 - Wikipedia](#)

[唐鳳 - Wikipedia](#)

[マルクス・ガブリエル - Wikipedia](#)

2020年

1月 3日	未知のウイルスの危険性を警告した中国の医師が「悪質なデマ」として当局に処罰される
1月 16日	新型コロナウイルスに感染した肺炎の患者が国内で最初に報告された。
2月 7日	中国の処罰された医師は新型コロナウイルスに感染で死亡。
2月 3日	クルーズ船ダイヤモンド号で新型コロナウイルス感染が病院へ搬送される。
4月 3日	都内で確認された感染者数・89人
4月 7日	政府・緊急事態宣言発出

新型 コロナウイルスワクチン

2020・12・ 5	78億5千万回分
2020・12・12	79億6千万回分
2020・12・21	82億 回分

世界ワクチン予約数推移



緑色の国は国民100%以上のワクチンを予約確保した国
一方では確保出来ない国との格差歴然

国連WHOでは全世界(180ヶ国地域)にワクチンを配布する活動COVAXファシリティが始動

アストラゼネカ(英国)

* ネットでCOVAXファシリティを検索してください。

モデルナ(米国)

ファイザー・オンテック(米国)

* 日本では治療薬、ワクチンとして注目されたのは

J&J(ジョン・アンド・ジョンソン)(米国)

富士フィルムのアビガン/日医工のフサン

スプートニック(ロシア)

科研製薬のイベルメクチン/帝人ファーマーのオルベスコ

シノバック(中国)

国際感染症センター(ワクチン開発)

バーラト・バイオテック(インド)

アンジェス(大阪大学)ワクチン開発 (T.K.)

新型コロナウイルスワクチンは、画期的なスピード(遺伝子操作活用)で開発されたが、その安全性が確保されたわけではない。アレルギー症状の副作用の発生が報告されている。

ワクチンの可能性と限界

1960年・北海道で小児マヒウイルス蔓延・ソ連からの生ワクチン10万人分認可拒否

1961年・小児マヒウイルス・ソ連から1千万人分のワクチン緊急輸入決断(古井厚生大臣)

1796年・ジェンナー(1749年~1823年)の天然痘ワクチンの開発

1980年・WHO天然痘根絶宣言(ワクチン開発から184年後)

病の本来の原因はヒトが本来住むべき環境から逸脱していることにある。

病になるのは、無駄に飾りたてたため、過ぎた贅沢をしたため 快樂に溺れたため。

“The deviation of man from the state in which he was originally placed by nature

seems to have proved to him a prolific source of deiseases.

From the love of splendour, from the indulgences of luxury, and from his fondness for amusement.”

ワクチン(ドイツ語) ヴァクチン(英語)の語源はラテン語の牛・VACCAからVACCINEとなった。

* エドワード・ジェンナーの詳細は次のURLを検索してください。 [エドワード・ジェンナー - Wikipedia](#)

2016年8月・ロシア北部の永久凍土が解けて、炭疽(ウイルス)集団感染発生。

エイズウイルス、エボラウイルス、ジカウイルスは森林の過剰な伐採や野生動物の過ぎた捕獲が原因とされています。・・・新型コロナウイルスも自然界からあふれ出たものと思われる。



次から発生するウイルスにたいしてワクチンは追いついていません。
新型コロナウイルスも自然界からあふれ出たものと思われる。

地球規模での環境対策が求められている。

中国は2035年には全て環境車に、通常のガソリン車は全廃を宣言。

菅首相「脱炭素で経済と環境の好循環を」長期戦略の見直しを指示。

イギリスは25万人の雇用を創出する「グリーン産業革命」計画を発表。ガソリン車、ディーゼル車は2039年までに販売禁止。

(国連が目標とするSDGsについてはWebでSDGSを検索して見てください。T.K.)



今、読むべき一冊「スモール イズ ビューティフル」人間中心の経済学

E・F・シューマッハ著・小島慶三・酒井懋 訳・1973 (講談社学術文庫)

第一部 現代世界 / 第一章 生産の問題/第二章 平和と永続性
第三章 経済学役割/第四章 仏教経済学

仏教経済学は一定の目的をいかにして最小限の手段で達成するかについて、組織的に研究するものである。現代経済学では再生可能の物質と再生不能の物質とを区別しない。仏教経済学者にいわせればもちろん、これはだめである。

現代経済学では再生可能の物質と再生不能の物質とを区別しない。仏教経済学者にいわせれば、もちろん、これは駄目である。

再生不能財はやむを得ない場合に限って使うものである。

(* E・F・シューマッハについての詳細は下記のURLを検索してください。T.K.)

エルンスト・フリードリッヒ・シューマッハー - Wikipedia



3つの危機のあとのブレークスルー Break Through(障害突破)

ジェンダー(社会的性差)のブレークスルー/女性の社会進出が進む

1930年・世界恐慌のあと・東京に女子専用の超豪華アパート150戸完売。

1946年・第二次世界大戦敗戦後・男女普通選挙・女性議員続々当選39名

1974年・初の女性裁判官

2009年・育児介護休業改正

2021年・働き方改革・テレワーク・在宅勤務が普通になる。男女差がなくなる予測。

コロナ禍で男女差を言っている場合じゃない。オードリー・タン

イノベーション(技術革新)のブレークスルー

1930年・冷凍食品開発

1946年・世界初汎用電子計算機開発、原子力発電、原子力空母

1973年・オイルショック・1974年・サンシャイン計画(自然エネルギー開発)

2009年・ブロックチェーンによるビットコインの発明(サトシ・ナカモト)

2021年・デジタルに加えて、フィジカル(身体的な)コミュニケーション(祝祭性)の回復予測。

レボリューション(革命・大改革)

1919年・第一世界大戦後・国際連盟創設、(ロシア革命、バウハウス創立、T.K.)
1930年・世界大恐慌のあと、インドで塩の行進、(1936年ナチズム台頭、1931年日支事変、T.K.)
1945年・(第二次世界大戦後・国際連合創設、アジア・アフリカで多数国が独立、冷戦始まる、T.K.)

2021年・寡占に異議を、GAFIAに対抗する新勢力の台頭、ローカルな技術の積み重ね、
ローカル技術、文化、経済の積み重ね、ローカルな言語のソフトの開発
民芸のように、土着のローカルなIT技術が発展する。
NEW ENLIGHTMENT・新しい啓蒙が芽生える。(マルクス・ガブリエル)

監視社会ではなく互いに気付きあうこと。公的権限で抑制するのではなく。
新しい啓蒙が世界をアップデート(更新)する。倫理と文化が覇権に対抗する。

(要約後記)

3密が弊害となり、代替、改革、革新を迫られるもの。

(大数・規模の経済性、効率性、匿名性が成立しなくなるもの、分野・・・)

(危機管理がしにくいもの、状況・・・)

外食産業・飲酒を伴う飲食店 ⇒ テイクアウト、デリバリー
大都市・大企業・大型店舗・大劇場・マンモス大学 ⇒ 分散化、専門化・・・
団体旅行・ジャンボ航空機・超大型クルーズ船 ⇒ 中型化、小型化、LCA・・・

全般的危機対応に改革が迫られるもの

無知・無関心 ⇒ 啓蒙、社会教育、社内教育・・・
連携・連帯意識 ⇒ 新しい日常、地域社会、町内会、クラブ・・・
心理(独善・傲慢・我欲) ⇒ 気付き、メディア、組織リーダー・・・
プライバシー・個人の権利 ⇒ 個人認証の拡大、監視社会への警戒・・・など

何をすべきか再考

時系列で考えると

近未来・直近の課題・・・Covit-19感染拡大の阻止、不急不要の対人接触の自粛など
中未来・Covit-19終息後の課題・・・新日常の構築、古い習慣・常識の創造など
遠未来の課題・・・貯蓄、体力、知力の強化など

空間・関係系列で考えると

家族、親類、知人、友人、近隣など個人的つながりの重視など
経済活動の見直し、事業内容、事業領域、収益性、発展性など
国際関係、外交、内政など政治思想の改革、SDGsにどこまで到達できるか、など

長い歴史の中で、先人は多くの災害に会って現代にいたっています。
先人が経験したことから得た英知を後世に残そうとしたことが歴史書、文学、絵画
音楽などに痕跡として残されています。ことわざに多くの英知が端的に表現されて
います。温故知新、過ぎたるは及ばざるがごとし、山高ければ谷深し・・・・・・
悲観的にもならず、楽観的にもならず、肅々と謙虚に残され日々を送りたいと思います。

これは編集子の個人的意見です。
読者の皆様ご自身のご意見、感想をお寄せ下さい。
(編集子・T.K.)